メモ

スタンプをおしてみよう

品川区立　品川歴史館
〒140-0014 東京都品川区大井6-11-1
TEL: 03-3777-4060
FAX: 03-3778-2615
品川歴史館　検索

古紙を配合した紙を使用しています。

利用案内

開館時間
午前9時～午後5時
（入館は4時30分まで）

休館日
月曜日・年末年始・国民の祝日（日曜日と重なった場合は開館、月曜日と重なった場合はその翌日も休館）
※展示替え、資料室燻蒸などの臨時休館あり

観覧料
一般　100円
小中学生　50円
（20名以上の団体は2割引。ただし特別展については別料金）
※品川区の小・中学生、70歳以上の方、障害のある方は無料

品川歴史館

※展示によって配置が変わることがあります。

品川歴史館を建てる時に見つかった！
大井鹿島遺跡

品川歴史館を建てていた昭和58年（1983）8月、地面の下約1～2mのところから、約1400～1200年前の、古墳時代から奈良時代の家の跡（竪穴式住居跡）が発見されました。その後、約3ヶ月かけて発掘調査をしたところ、26軒の建物の跡と、土師器という土器のかめや碗などが見つかりました。

大井鹿島遺跡の土器と大森貝塚から見つかった縄文土器のかたちや使い方、食べ物の違いを調べてみましょう。

大井鹿島遺跡住居跡（復元）

開園時間
通常：午前9時～午後5時
夏季（7～8月）：午前9時～午後6時
冬季（11～2月）：午前9時～午後4時

① 縄文体験広場
② モース広場
③ 波のオブジェ
④ 縄文の広場
⑤ 貝塚学習広場
⑥ 貝層標本
⑦ 大森貝塚碑

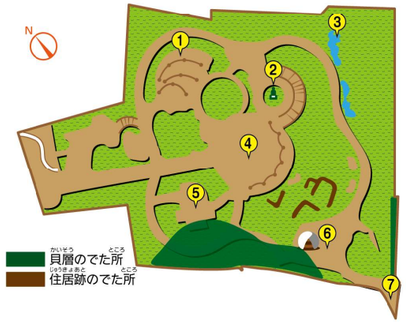
品川歴史館から歩いてすぐ！
大森貝塚遺跡庭園

明治10年（1877）E・S・モース博士は汽車の窓から貝塚を発見しました。この貝塚が大森貝塚です。同年、日本で初めて科学的な発掘調査が行われ、日本考古学がここから始まりました。

その後、昭和4年（1929）に大森貝塚碑が建てられました。また、品川区はモース博士が生まれたアメリカ合衆国メイン州ポートランド市と昭和59年（1984）に姉妹都市となり、これを記念して大森貝塚遺跡庭園ができました。

E・S・モース

大森貝塚碑



品川区立品川歴史館

見学のしおり

大森貝塚土器（深鉢型土器）

品川歴史館へ ようこそ！

品川歴史館は品川の歴史にかかわるものをたくさん展示しています。じっくり探検して品川の歴史博士になろう！

第１展示室

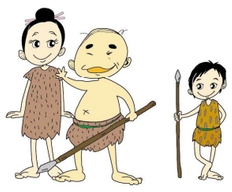
貝塚ってなんだろう？

大森貝塚貝層標本

貝塚とは大昔のゴミ捨て場のあとのことです。身を食べた後の貝ガラや、動物の骨、こわれた道具が捨てられています。貝塚を調べると当時の人が何を食べて、どんな道具を使っていたのかがわかります。

上の写真は日本で最初に発掘された、今から約３０００年前の縄文時代の、大森貝塚の貝層です。何があるかよく見てみましょう。

★大森貝塚の展示は２階にもあります。
また発掘された場所にある大森貝塚遺跡庭園にも行ってみましょう。



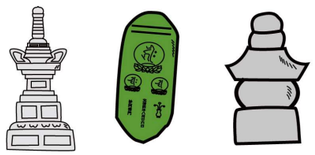
大がめ 海をわたる

大がめは水や食べものを入れるなど、色々な目的で使われました。写真の大がめは、品川区の御殿山で発見されました。

今から約６００年前に常滑（現：愛知県常滑市）で作られたもので、船で全国各地に運ばれました。この頃の品川は多くの船が出入りする港としてにぎわっていて、常滑から品川まで船で運ばれたと考えられています。

第１展示室の年表「品川のあゆみと日本」のイラストを見ながら、大がめが運ばれたころの様子を想像してみましょう。

御殿山から見つかった中世のお墓と供養塔



宝篋印塔　板碑　五輪塔

常滑焼の大がめ

第１展示室

江戸の出入り口 品川宿

宿場は人や物が行きかい、旅人が泊る宿がありました。品川は江戸から京都に向かう東海道の最初の宿場であり、また江戸から近く、お花見や潮干狩り、紅葉狩りなど日帰りで遊びに来る場所でもありました。そのため品川宿は旅籠屋（旅館）や食べ物屋などが建ちならび、大変にぎわいました。第１展示室には品川宿の模型が、２階には旅籠屋の座敷を再現したデッキがあります。

歌川広重（初代）東海道五拾三次之内　品川　日之出

お殿様のお屋敷

江戸時代、品川には大名の屋敷がたくさんありました。その多くは下屋敷というお殿様が休む屋敷で、広い敷地の中には立派な庭が造られていました。第１展示室には現在の戸越公園にあった熊本の細川家下屋敷の模型があります。また仙台坂にあった仙台の伊達家下屋敷跡（現：東大井４丁目）から発掘された道具や、ペットと思われる犬の骨も展示しています。

大井の桜

品川の御殿山から大井にかけての地域には、お寺や個人の家を中心に多くの桜が植えられ、将軍、お殿様の興方から庶民までたくさんの人たちが訪れていました。大井の西光寺（現：大井４丁目）には、「夜になると子どもに化けて遊んだ」という言い伝えをもつ児桜が一株残されています。江戸時代から続く桜です。

西光寺の児桜
アクリル標本

海とくらし

海に面した品川の人々は、昔からその恵みを受けて生活していました。江戸時代には将軍に魚を納める８つの漁村（御菜御肴八ヶ浦）のうち、品川浦（現：東品川1･2丁目）と御猟師浦（現：東大井1･2丁目）の2つが、現在の品川区内にありました。また、品川から羽田にかけての海では海苔が作られ、鮫洲や天王洲で採られた海苔は将軍に納められていました。しかし埋立てや水質汚濁などによって、昭和38年（1963）に漁業はおこなわれなくなり、海苔も作られなくなりました。

桁舟の模型

第２展示室

近代品川の工業

鉄道は明治５年（1872）、新橋と横浜の間を走りますが、その前から仮開業という形で品川と横浜の間を走っていました。自黒川沿いでは、日本で初めての洋式ガラス工場である品川硝子製造所や後に東京駅で使用されたレンガを作った品川白煉瓦工場などの工場が明治から大正時代に作られました。その後、大井町駅のまわりや荏原地区に人々が集まり、住宅地や商店街ができ、品川は大きく発展していきました。

金赤色被桜文花瓶
（品川硝子製造所産）

太平洋戦争と品川

昭和16年（1941）に始まった太平洋戦争が長びくと、日本は空襲の被害を受けるようになりました。なかでも荏原区（現在の荏原地区）は、広い範囲が空襲の被害を受けました。このような中、空襲の被害を避けるため、地方に避難する疎開が行われました。地方に親せきや知人がいない子ども達は、学校ごとに疎開をしました。品川では多摩地域や静岡県、富山県、さらには青森県へ、1万1000人以上の子ども達が、1年以上も両親と離れて、疎開先で生活をしました。

品川区での防空演習の様子

疎開先での生活を描いた児童の絵

焼夷弾

模型をじっくり見てみよう！

第１展示室の真ん中にある品川宿の模型は、行きかう人々やお店の中の様子が細かく作られています。どんな人がいるか、模型をよく見てみましょう。

どこにいるのか探してみよう

何のお店かな？

何をしているのかな？

子どもの足元に注目！